

## 第4回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 議事要旨

日時：平成31年1月10日（木曜） 10：00～12：00

場所：市役所4号館1階 本部員会議室

### 議事内容

#### 新・神戸文化ホール素案の変更点などについて

---

- ワーキングを受けて、良い素案が出来たのではないかと思う。
- 大ホールをバスターミナルⅠ期に作る際、Ⅱ期と整備時期が異なることによってホール間の連携した運用が不完全にならないよう、バスターミナルⅡ期との連携を踏まえて進めて欲しい。
- バスターミナルⅠ期とⅡ期の建物について、ホールが2棟に分かれるので空中で接続できるようにして欲しい。このことは、Ⅱ期の事業者の階高などを制約することになるので、うまく調整が必要になってくる。大・中の連携や創造支援機能なども含め、使い勝手の面から非常に重要なことである。
- （練習室などの）創造支援機能をバスターミナルⅠ期に組み込んで、そこでの活動がバスターミナルⅡ期のホールが完成したときに移行していけるような、準備的な活動ができるシステムが必要ではないか。
- 区民ホールが無い状態で大ホールと音楽専用ホールができることになるので、「音楽専用ホールは区民の集まりには使えない」となると困るだろう。区民の利用についても考える必要がある。
- 2号館に音楽専用ホールというのは良いと思うが、それに加え、フラットな広い空間も併せて別のフロアで整備すれば、多目的な空間として活用できるのではないか。
- 今の文化ホールは、休憩時にちょっと飲み物を取りたいと思っても行列に並ばなければいけない。せっかく良い気分で音楽を楽しんでいるのに中断される感じがする。交流スペースも非常に大事になるので、その部分のグレードをアップさせると神戸らしい良いホールができるのではないか。
- バスターミナルⅡ期に出来るホールは、文化ホールの中ホールと区民ホールの機能を備えるとあるが、座席は固定か可動式かどちらになるのか。例えば、いわき市のアリオスという劇場の中劇場は舞台・客席ともに可動式だが、評価が高い。自由度が高いため、新しい表現などにも対応できる仕様になっている。現中ホールでの多目的利用や、区民が平場で利用することも含め、良いホールとなるように考えていく必要がある。
- 区民ホールについて、はっきりと区民優先としてしまうと、例えば3年先の大きな催

しなどは「区民と関係ないから」とできないことになる。3つのホールについて、それぞれ性質は違うが一体的であるイメージを持って運営できるようにすべき。

- 準備室の体制について、兵庫県立芸術文化センターでは、開館6年前の1999年に準備室推進体制がとられている。今の計画では、2030年頃までは3箇所ホールが分散されることになる。運営側の負担が増え業務が大変になるのは目に見えているので、早期に推進体制を作る必要があるだろう。兵庫県立芸術文化センターの準備室は20名程度であったと思う。このホールも規模としては同じくらい必要だろう。
- ホールが分散するが、技術の革新により、今後様々なテクノロジーを使って各ホールを連動させることも可能になってくるだろう。映像や舞台技術もどんどん進化していく。そうしたことに対応していくためにも、早期に準備室を設置して、時代の先端を読んでほしい。
- 現在の30代、40代の人など、今後を担っていく人材にも積極的に意見を聞き、新しい神戸の中心になるようなホールとソフトを計画していければ良いと思う。
- 新しいホールができて良いという思いはあるが、反面、歴史的な場所を無くして良いのかとも思う。例えば、大倉山のあじさいのモザイク画などは市民の記憶に残っている。大倉山の文化ホールの記憶をどう残していくかも考えていかなければならない。